

# 平成19年度事業報告 (文化振興事業)

## 平成19年度財団法人新宮町文化振興財団事業概要

本財団設立趣旨に基づき、新宮町の芸術文化の普及振興及び芸術・文化活動の活性化促進を図るため、幅広い分野で事業を推進した。

財団設立7年目となった今年度は、地域住民参加型事業としてミュージカルオペラ「魔笛」公演に取組んだ。練習期間も7ヶ月間にわたり、多くの参加者とともに充実したプログラムを体験することができた。

また、自主的に文化芸術活動を行っている地域の方々の活動を支援する「ちいき文化支援プログラム」も2年目をむかえ、好評をいただいている。

一流の文化芸術公演の鑑賞機会を提供する使命を果たしつつ、参加・育成型事業にも積極的に取組むことで、地域における文化芸術の普及振興を図り、活力のあるまちづくりに寄与し続けていく。

事業報告については、事業分野に沿って以下のとおりである。

### (1) 芸術・文化の普及及び振興

音楽1、伝統芸能2、映画1、その他1、計5事業を実施。総(延べ)入場者数は2,345名であった。

音楽では「稲垣潤一アコースティックコンサート」を開催。多くの方々に来場いただき、盛況であった。そぴあしんぐう大ホールの特長を生かしたこの分野は例年、大変好評をいただいている。

伝統芸能では、「春風亭小朝独演会」と「博多茂山狂言会」を開催。独演会は、チケットも完売となり根強い落語人気を再認識させられた。小朝師匠の話芸も流石に秀逸ものであった。狂言では初めて、装束の着付け実演をプログラムに取り入れ、好評をいただいたが、集客には苦戦した。

昨年度までの映画祭を衣替えし、年3回実施の「そぴあシネマシリーズ」として開催。久留米が舞台の「卒業写真」、沖縄が舞台の「恋しくて」、北海道が舞台の「雪に願うこと」をそれぞれ上映した。

宝くじの助成事業である宝くじ文化公演を開催。鹿児島出身の俳優・榎木孝明の朗読と古箏奏者・ウーファンによる演奏のコラボレーション企画「言の葉コンサートシリーズ」を実施。あたらしい舞台芸術の取組を目の当たりにした。

### (2) 地域住民の芸術文化活動の活性化促進

地域住民参加型事業「魔笛」を財団法人地域創造の助成を得て実施。4歳から80歳までの多くの参加があり、みんなで舞台作品を創りあげた。

7回目を迎えた「ピアノリレーコンサート」を実施。相変わらず好評で定員を超える応募があった。一般(成人)の参加希望者が増加傾向であり、ピアノ愛好者の広がりを

感じる。また、民間事業者との共催にて「中島啓江コンサート」を実施。

大ホールの空き日を利用した新企画「エンジョイ！ピアノ」や毎月恒例のロビーコンサートも好評であった。自主的に文化活動をされている方々を様々な角度から支援する「ちいき文化支援プログラム」も本格的に立ち上げた。

### （３）学習活動の機会提供

恒例の「夏休みわくわく体験隊」を開催。「農村文化」をテーマに熊本県の通潤橋と清和文楽館を訪問。体験教室も実施した。

### （４）その他目的を達成するために必要な事業

情報誌「Sopia Magazine」を年４回発行。

友の会「Club Sopia」事業の継続。

## 平成19年度そびあしんぐう管理業務の実施について

### (1) 施設の管理について

職員の勤務体制を3交替制（A 8:30～17:15 / B 10:30～19:15 / C 13:15～22:00）とし、利用者へのサービス提供を、よりきめ細かく対応できるようにした。

また、館内の一斉点検を実施（10月15日 / 3月10日）し、備品や設備の状況把握、不備のあるものについては補修措置等を行った。

開館より7年目を迎え、徐々に修繕や改修が必要な箇所が目につくようになってきている。建物、設備及び備品等の状況把握に努め、利用しやすい環境整備に引き続き努力していく。

### (2) 施設の運営について

地域の皆様に親しまれる施設であり続けるために、ロビーや情報コーナーにて季節感のある展示を実施した。新春の鏡餅や凧、また、さげもんや雛飾りといった展示を行い、大変好評をいただいている。

施設の稼働率及び来館者数も軒並み向上させることが出来た。

今後とも利用者の立場に立った施設運営を心がけ、より多くの方々に親しまれる施設となるよう、努力していく。

また、利用団体の活動を活性化させる観点から、ホームページを活用した支援を実施。当財団事業である「ちいき文化支援プログラム」も活用いただきながら、にぎわいと活力のある施設運営を行っていく。

### (3) 緊急時対策について

消防避難訓練を2回実施。

防災監視システムや消防設備の操作等、課題をもって取組を行った。

### (4) その他

開館から7年目を迎え、修繕等が必要な箇所が目立ってきた。利用者へ迷惑をおかけしないよう、迅速な対応を心がけている。ただ、設備関係についてもメンテナンスや補修、交換の必要性を指摘される時期となっている。

休館日が年末年始のみの状況では、長期的視野にたった施設維持管理計画を遂行する環境であるとは言いがたいのが現状である。

結果として、施設の維持管理コストを縮減させるためにも定期的な休館日を設定し、中長期的な維持管理計画が必要であると思われる。